

図書の文化史

このたびの東日本大震災にて被災されたみなさまに、謹んでお見舞いを申し上げます。

3月11日の天災とこれに続く人災には、生命の大切さと日常の暮らしが保障されることの重要さをひしひしと感じさせられ、今もなお痛感する日々となりました。

今回の大震災では貴重な資料も失われました。しかし、いち早く資料救出作戦も開始されています。

『岩手日報』（4月15日付）によりますと、岩手県指定文化財『吉田家文書』の解読に20年間取り組んできた陸前高田古文書研究会では会員3名が亡くなり、解読文も大半が流失しました。『吉田家文書』とは「気仙郡を統括した吉田家に伝わる文書で、江戸時代の仙台藩を知る上で貴重な資料」で、解読は全95冊のうち、あと2冊というところまで進んでいたとのこと。陸前高田市高田町の市立図書館は天井まで、水没したのですが、原本は貴重本庫に納められていたため流失を免れました。しかし海水に浸されたため、岩手県立博物館において修復作業にとりかかりました。同時に陸前高田古文書研究会の会員は、「郷土の歴史を守ることが、生き残った者の使命」だと感じ、岩手県立図書館所蔵の原本のマイクロフィルムによる複写をもとに、解読を再開しておられます。

また、国立国会図書館の『カレントアウェアネス-E』（No.194、2011.06.09）には、被災資料を救出するための活動について次のような報告がされています。

○紙資料保存の専門家が被災地での文書復旧システムの導入支援を行うボランティアグループ「東京文書救援隊」を結成、ウェブサイトには被災資料処置工程を掲載。

○東京文化財研究所、国立公文書館、日本写真学会等が、水損資料の救出・修復等に関する資料やガイドラインを公表、文化財保存修復学会や全国歴史資料保存利用機関連絡協議会等は、文化庁の被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）への協力者を募集。

興味深い報告のひとつは、『カレントアウェアネス-E』（No.196、2011.07.07）の被災文化財等のレスキュー事業における水損資料の乾燥作業です。津波等による水損被害を受けた文書資料等には、カビの発生や腐敗防止のために資料を凍結した状態で乾燥する真空凍結乾燥が有効です。埋蔵文化財センター保存修復化学研究室の高妻洋成室長によりますと、奈良県中央市場内の奈良市場冷蔵株式会社と日本冷蔵倉庫協会の協力により、冷凍倉庫内で資料の一部保管を実施しており、これによって、乾燥機の順番待ちをしている間に生じる資料の劣化を防ぐことが可能となっています。

資料保存のためのこのような協力事業は一例で、復興への動きとともに、未来への遺産として資料を残すための協力関係が各地で進められています。紙媒体による資料に限らず、様々な文化財を保存し、未来につなぐための協力や情報交換がウェブサイトを通じて、報告されています。関心がある方はぜひ、博物館・美術館、図書館、文書館、公民館（MLAK）の被災・救援情報サイト、saveMLAK(<http://savemlak.jp>)をご覧ください。

明治大学図書館は人類の文化を伝える貴重な資料等を長年にわたって収集し、コレクションを充実してきました。

図書館の使命は、貴重な資料を後世のために保存すること、同時に広く多くの人々に公開し、人類の知的遺産を共有する機会を提供することでもあります。本展示を通して、人類が長きにわたって紡いだ文化の一端に触れていただくとともに、その文化の「保存」について思いを馳せていただく機会となりますようお願いしております。

元文学部教授 リバティアカデミー講師
阪田 蓉子

1. **エジプト死者の書 紀元前 300 年頃 布製 5.5×16cm 091.6/21//H**
初期プトレマイオス王朝の布製「死者の書」の一部。
ヒエラティック(神官文字=ヒエログリフを簡略にした古代エジプト文字)で記されている。
2. **貝多羅^{ばいたら}經典 書写年不明 46×6cm 貝葉数量: 73 葉 183.81/2//H**
貝多羅に經典を書写したもの。貝多羅とは梵語(サンスクリット語) pattra の音訳語で、「樹木の葉」の意味だが、特に文字を記すのに用いられる多羅樹の葉のこと。古来インドなど南アジアで紙が流通する以前より、ヒンドゥー教や仏教の聖典書写に用いられた。貝多羅を乾燥させて、葉面に針(鉄筆)で経文を彫り、その跡に「すす」を流すと黒褐色の文字が残る。幅 5-6cm、長さ 30-60cm に裁断、書写した經典を夾板(書物を保護するため、2枚の板で書物を挟み紐で結ぶもの)で押さえ、左右の小穴に紐を通してしばり、書冊にして保存した。
3. **シュメール朝粘土板印章 紀元前 2029 年頃 091.6/20//H**
【参考展示】元静岡県立大学教授 尾崎亨氏による翻字(ローマ字)・翻訳・解説
4. **シュメールの楔形文字が刻まれた粘土板の伝達文
メソポタミア ウル第三王朝時代 紀元前 2100 年頃 091.6/19//H (1-A)**
【参考展示】元静岡県立大学教授 尾崎亨氏による翻字(ローマ字)・翻訳・解説
5. **シュメールの楔形文字が刻まれた粘土板 紀元前 2300~2200 年頃 091.6/19//H (1-B)**
【参考展示】元静岡県立大学教授 尾崎亨氏による翻字(ローマ字)・翻訳・解説
6. **シュメールの楔形文字が刻まれた粘土板 紀元前 17 世紀頃 091.6/19//H (1-C)**
【参考展示】元静岡県立大学教授 尾崎亨氏による翻字(ローマ字)・翻訳・解説
7. **新シュメールの楔形文字が刻まれた粘土円錐 紀元前 2120 年頃 091.6/19//H (1-D)**
新シュメールの楔形文字の例。太い円錐の粘土に刻まれた奉獻文で、Gudea による Lagash 統治時代の Ningirsu 神殿建設を祝うものである。
【参考展示】元静岡県立大学教授 尾崎亨氏による翻字(ローマ字)・翻訳・解説
8. **古バビロニア語の楔形文字入り円筒印章
南メソポタミア 古バビロニア時代 紀元前 1900~1600 年頃 091.6/19//H (1-E)**
向かい合って立つ二人の人物が描かれており、左は角付きの装飾冠を被り、襜入りの長い衣を身につけた神で、片手を腰に当てており、右は無帽の崇拝者で、長い襜入りの衣を着て片手を挙げて神を崇拝している。かつての所有主を記す2行の碑文がみられる。
KAL-dwe-er Aqar-Wer dumu bi-la-du-ú Biladū の息子
9. **エジプト象形文字の例 エジプト 新王国時代 紀元前 1200 年~紀元 2 世紀頃 091.6/19//H (2)**
パピルスに書かれた「エジプト死者の書」断片で、来世のための呪文が書かれている。

10. エジプト神官文字の例

エジプト メンフィスまたはファユーム 紀元前 4 世紀～紀元 2 世紀頃 091.6/19//H (3)

亜麻布に書かれた神官文字の例。
神官文字は、象形文字を簡略化したもので、神官らが記録を取るのに用いた。この布片は、「エジプト死者の書」からの文言を含んでいる。



11. エジプト民衆文字の例 エジプト 紀元前 7 世紀～紀元 2 世紀頃 091.6/19//H (4)

神官文字をさらに簡略化した民衆文字でパピルスに書かれた商業文書の断片。

12. コプト文字の例 エジプト 4～7 世紀頃 091.6/19//H (5)

コプト文字でパピルスに書かれた商業文書の断片。コプト語は古代エジプト語から派生した言語だが、現在ではほとんど使われていない。

13. ギリシャ語の例 エジプト 2～6 世紀頃 091.6/19//H (6)

パピルスに筆記体のギリシャ文字で書かれた商業文書の断片。

14. アラム語の例 シリア 1～3 世紀 091.6/19//H (7)

イエスの時代に聖地エルサレムの民衆の言葉であったアラム語を用いて鉛に記された呪術文書。

15. ササン朝の文字の例 古代ペルシア 224～650 年 091.6/19//H (8)

名前が入られたササン朝ペルシアの印章。

16. ブラーフミー文字の例 パーミヤン 2～5 世紀 091.6/19//H (9)

後の多くのインド文字の基礎となったブラーフミー文字でシュロの葉に書かれた文書の断片。

17. カロリング朝後期の文字の例 スペイン 10 世紀 091.6/19//H (10-A)

18. シトー修道会の筆写体 フランス ブルゴーニュ シトー修道院 1150 年頃 091.6/19//H (10-B)

ヴェラム(子牛・子羊・子山羊の皮を薄く剥いでなめし、筆記用としたもの)にシトー修道会のロマネスク体文字で書かれたラテン語文書の一部。1098 年のシトー修道会設立からわずか半世紀後に書かれた、リヨンのフロルスによる『シトー修道会の本山であるブルゴーニュのシトー修道会におけるパウロの書簡の解説』という中世

教父写本の一部。

19. **イタリアの写字生による小型聖書の一葉 イタリア ポローニャ 1250年 091.6/19//H(10-C)**
ラテン語でヴェラムに書かれた小型聖書の一葉。民数記 31-33 章が、ゴシックの小文字体で褐色インクにより 55 行にわたって書かれている。赤と青による頭文字や欄外装飾、赤字による章題が入れられている。
20. **パリの写字生による聖書の一葉 パリ 1250年頃 091.6/19//H(10-D)**
二ツ折り判パリ聖書の一葉。エゼキエル書 31-32 章が 50 行にわたり黒インクの細いゴシック体で書かれている。章題および行末装飾には赤と青のインクが用いられ、ペン装飾が施されている。
21. **イギリスの写字生による詩篇集の一葉 イギリス 14世紀 091.6/19//H(10-E)**
ラテン語でヴェラムに書かれた詩篇集の一葉。黒インクによる角ばったゴシック体の文字が 17 行にわたって書かれている。青インクと磨かれた金箔による 1 行題の頭文字多数。磨かれた金箔地に青と白による 2 行大の頭文字「A」が 1 点、詩篇冒頭に入れられている。
22. **フランスの写字生による時^{じとうしょ}禱書の一葉 フランス 15世紀中葉 091.6/19//H(10-F)**
ラテン語でヴェラムに書かれた時禱書の一葉。文章は 15 行で褐色インクにより、ゴシック体で書かれている。1-2 行大の頭文字は、赤または青のテンペラ地に磨かれた金箔を用い、アカンサス葉と花模様の縁飾りが施されている。
23. **14世紀イギリスの法廷文書 イギリス 1306年 091.6/19//H(11-A)**
ラテン語で書かれた Ricardus Duraci, Mansus de Calasillis の土地譲渡に関する公証人証書。
24. **16世紀イギリスの法廷文書 イギリス 1578年 091.6/19//H(11-B)**
ラテン語法廷文書。Stopesley, Linton, Bedfordshire の Thomas Pyggott から John Francklyn 他に対する譲渡証書。証人および Pyggott の署名入り。エリザベス一世統治 20 年目 2 月 14 日の日付入り。

25. 中世彩色写本零葉『旧約聖書 レビ記』 フランス 13 世紀頃 091.6/23//H

ラテン語。ヴェラム。24×17cm。

26. 中世彩色写本零葉『時禱書』 パリ 1410 年頃 091.6/24//H

ラテン語。ヴェラム。21×16cm。

27. ケルズの書【ファクシミリ版】 099.3/432//H

The Book of Kells

Full-color facsimile of the 8th century. Latin manuscript (Ms. 58 in the Library of Trinity College, Dublin)

A unique, limited edition of 1480 copies worldwide Luzern : Faksimile Verlag Luzern , c1990

8 世紀末ないし 9 世紀初頭に制作された聖福音集。制作地は諸説あったが、現在ではスコットランドのアイオワ島とアイルランドのケルズの修道院の連携で完成されたとの説が有力である。華麗な装飾や挿絵に彩られたページが、ウルガタ版聖書(384 年に聖ヒエロニムスによって完成された標準ラテン語訳聖書)の本文ページに挿入されている。ケルト・ゲルマン起源の唐草文様を惜しみなく用いて、2 つのページを除く全てのページが彩色されている。装飾の緻密さ、文様表現の伝統、色彩の豊かさ、書体の美しさなどから、「装飾写本芸術」の最高峰と称えられている。ケルズの修道院に伝来し、17 世紀以来今日までアイルランド共和国のダブリン大学トリニティー・カレッジ図書館に保存されてきた。

※ファクシミリ版

facsimile edition

原資料の本文・図像などの形・色を写真製版技術によって正確に再現するだけでなく、紙質・装丁などの造本面についてもできる限り忠実に再生したもの。ファクシミリ版は、他の複製に比べ手間・費用がかかるため、特に貴重な資料である場合のみ刊行される。

28. リンディスファーン福音書【ファクシミリ版】 099.3/342//H

The Lindisfarne Gospels

This Fine Art Facsimile volume is a faithful recreation of the original manuscript Cotton MS Nero D iv preserved in the British Library, London Luzern : Faksimile-Verlag , c2002

イングランド北東部のリンディスファーン島の修道院で制作された福音書。この修道院はスコットランドのアイオナ修道院からやって来たアイルランド人修道士によって 635 年に創設された。本書には 970 年前後にチェスター・ル・ストリートのオールドレッド(Aldred of Chester-le-Street)によって書き加えられた奥書があり、それによると、この書物は神と聖カスバート(635-687)に捧げられたもので、写字と装飾をイードフリス(?-721、後にリンディスファーン修道院司教となった修道僧)が、装丁にはエセルワルドとビルフリースが当たり、オールドレッド自身が行間に英語訳を加えた、とされている。聖カスバートは、リンディスファーン修道院の第 6 代司教で、ローマ教会との対立で権威を失墜した修道院の危機を救った聖人として、多くの人々に崇拝されていた。制作年代については、689 年頃という定説に対し、710 年以降であるとの新説が本書の別巻解説で発表されている。

ケルト美術とアングロサクソン美術さらにローマ美術の稀有な融合(ケルト系螺旋紋・ゲルマン系動物組紐紋・地中海系福音書記者像などからなるモチーフ)を示す美術的価値ともに、本文行間に 10 世紀の古英語訳を有しているという点でも評価されている。本書と『ダロウの書』(680 年頃)、『ケルズの書』(800 年頃・ファクシミリ版

を当館所蔵)をあわせた 3 つの写本はイギリスの三大彩飾写本として名高い。「カーペット頁」「装飾頭文字の頁」の精緻な装飾文様が特に目を引く。残念ながら当館所蔵のファクシミリ版はエセルワルドとビルフリースによる豪華な装丁は再現されていない。原本は英国図書館蔵。

29. **ダロウの書【ファクシミリ版】 099.3/523//H**

The Book of Durrow : Evangeliorum quattuor Codex Durmachnsis

248 leaves ; 37 cm Facsim. reprint of: Codex in the Trinity College, Dublin

Olten : Urs Graf-Verlag , 1960

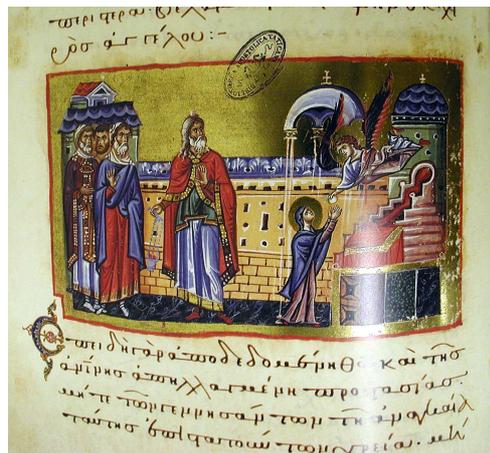
アイルランドおよびブリテン島で制作された装飾福音書写本としては、現存する最古のものとされる。650 年頃、アイルランドのダロウ修道院で制作が開始されたことから、『ダロウの書』と呼ばれ、現在は、ダブリンのトリニティ・カレッジ図書館に保存されている。『ダロウの書』は、『ケルズの書』、『リンディスファーン福音書』と共に、三大ケルト装飾写本と呼ばれ、現存する最も美しい書物として名高い。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四福音書に序が加えられており、素材は羊皮紙、248 葉からなる。カーペット頁と呼ばれる装飾頁が現存 6 頁、四福音書記の図像 1 頁、さらに各福音書記者の図像が 4 頁、装飾文字が 6 頁ある。特徴の一つは、福音書記者の象徴図像が伝統的なものと異なっている点で、マルコの象徴図像が獅子ではなく鷲に、ヨハネには鷲ではなく、獅子が描かれている。また写本の文字はインシュラー体（島の文字、Insular Script）と呼ばれる書体で書かれている。これは、6~8 世紀頃にかけてイギリスやアイルランドで用いられた書体で、本書とともに『ケルズの書』や『リンディスファーン福音書』が、インシュラー体による代表的な写本である。

30. **ベリー公のいとも美しき聖母時禱書【ファクシミリ版】 099.3/135//H**

Die très belles heures de Notre-Dame des Herzogs von Berry

Manuscrit Nouv. acq. lat. 3093, Biblioth è que Nationale, Paris

中世末期の彩飾写本のなかでひととき美しく規模の大きなこの時禱書は、愛書家ベリー公が企画した彩飾写本のなかで最も美しいといわれているもので、ヤン・ファン・エイクをはじめ当時の主要画家がこぞって参画した。時禱書とは、ローマ・カトリック教会において、平信徒が個人的に使用するためラテン語または当該国語で書かれた「聖母への祈りを中心とする祈禱書」であり、14・5 世紀のフランス、フランドルで数多く制作された。この時禱書は数奇な運命をたどって今日に伝えられ、パリとトリノに分割保管されてきた。現在はフランス国立図書館蔵。



31. **クロイの時禱書【ファクシミリ版】 099.3/410//H**

Das Croy-Gebetbuch (Codex 1858 der Ö sterreichischen Nationalbibliothek in Wien)

Full-ornamented facsimile edition

ブルゴーニュ公国の貴族の中で最も重要で由緒あるクロイ家の一員が、この時禱書の中に一種の記念帳風の

書き込みを残していることから、『クロイの時禱書』と呼ばれる。フランドル写本芸術の代表的画家シモン・ベニン
グらによって彩飾され、装丁を含め完全な状態で今日に伝えられた絢爛たる時禱書を忠実に再現。月暦図、
全頁大彩飾画に加えて、欄外には多数の花、鳥、昆虫、宝飾品、さらにヒエロニムス・ボスの世界を彷彿とさせ
る怪物たちが描き出され、興味深いものとなっている。オーストリア国立図書館蔵。

32. マルコ・ポーロ『驚異の書：東方見聞録 (Fr.2810)』 15世紀前半【ファクシミリ版】 099.3/264//H

Polo, Marco, 1254-1323? *Le livre de merveilles du monde*

Facsimile reprint of the part of Marco Polo of the original illuminated manuscript Fr. 2810 in the Biblioth
èque nationale, Paris

ブルゴーニュのジャン無畏公 (*sans peur*) が15世紀初頭にブシコーの画家など当時最高の画家たちに命じて
製作させた豪華写本で、1413年1月に叔父の愛書家として名高いベリー公ジャンに贈られたことが、公の財
産目録に記録されている。原本は、『驚異の書 (*Le livre de merveilles du monde*)』と題されて、マルコ・ポーロ、
オドリコ、マンドヴィルなど6人の旅行記や遠征記などの著作が収録されているが、本書はその中に所収のマ
ルコ・ポーロ『東方見聞録』(ff.1-96v.)のファクシミリ版である。日本では『東方見聞録』という書名でよく知ら
れているが、一般的には、『世界の記述 (*Divisement dou monde*)』あるいは『百万の書 (*Il milione*)』、などの
写本名で呼ばれており、ジェノヴァの獄中で商人マルコ・ポーロがアジア諸国で見聞したことを口述し、ピサ
人の物語作家ルスティケロがそれを筆記し後世に伝えられた。

『東方見聞録』の現存する古写本・古版本は140余種にのぼり、その系統は錯綜しているが、現在では、主
要テキストは6種類に区別されている。そのうち、フランス語写本は2系統に別れ、もっとも重要なテキストとさ
れるのは、イタリア語方言の入ったフランス語で書かれたF本(フランス国立図書館蔵 Fr.1116)であるが、本
写本は、FG本と呼ばれるもうひとつの系統のフランス語訳写本に属し、テキストは14世紀初頭の標準フラン
ス語で綴られている。原本はフランス国立図書館蔵。

【参考展示】 マルコ・ポーロ『全訳マルコ・ポーロ東方見聞録：驚異の書：fr.2810写本』2002年

東京：岩波書店 099/4953//H

Le livre des merveilles

パネル展示 ボルソ・デステの聖書 【エステンセ図書館蔵本ファクシミリ版】 099.3/412//H

La Bibbia di Borso d' Este : Ms.Lat.422-423

ルネサンス宮廷文化が開花したフェッラーラの君主、エステ家のボルソのために制作された2巻
本ラテン語聖書 (*Bibbia lateina*)。モデナの国立エステンセ図書館に所蔵されており、一般に『ボ
ルソ・デステの聖書』の名で親しまれている。タッデーオ・クリヴェッリら第一級の画家の手による
本写本は、イタリア15世紀彩飾写本のなかにあつて、挿絵および彩飾の質の点でも、量の点で
も最も傑出した作品として、西欧彩飾写本芸術の全歴史において最も絢爛豪華な本のひとつの
評価を得ている。

33. **ゲーテンベルク『四十二行聖書』 零葉 3 枚**
【ファクシミリ版】 099.3/263//H

本零葉は、アメリカの Huntington Library 所蔵本より制作されたファクシミリ版で、Canticum canticorum Salomonis (雅歌)、Prophetia Baruch (バルク書)、Actus apostolorum (使徒言行録) の 3 葉。

34. **ゲーテンベルク聖書 マザラン版【ファクシミリ版】**
2 冊 099.3/433//H

ゲーテンベルク聖書は『四十二行聖書』と呼ばれるほかに、1763 年、書誌学者ドゥ・ボルがフランスの枢機卿マザラン(Mazarin, 1602-1661)の文庫から埃にまみれた「ゲーテンベルク聖書」紙刷り本 2 巻(完本)を発見し再び脚光を浴びることとなり、これにより、別名『マザラン聖書』とも呼ばれている。本書はこの由来となったマザラン図書館の原本から、1984 年パリの Édition les incunables が制作したファクシミリ版である。原本と同じ印刷法を用い、同じ製紙法で再現した用紙に印刷されている。装丁はモロッコ皮を使用している。

※ゲーテンベルク『四十二行聖書』

マイnitzの金細工師ヨハン・ゲーテンベルクが発明した活版印刷術により、初めて印刷された聖書。1450-55 年頃完成したと考えられている。

大型二ツ折で上下 2 巻本のラテン語聖書。本文は 2 段組。冒頭の 9 ページは 40 行、10 ページ目は 41 行、11 ページ以降は全て 42 行であるため、『四十二行聖書』と呼ばれている。

世界で現存する原本は 48 部。そのうち完全本はわずか 21 部である。

印刷後は未製本のシートを各地に送って、顧客の好みに合わせて大文字や余白に装飾が施され製本された。



ゲーテンベルク

35. **シェーデル『年代記』 ニュルンベルク 1493 年 ドイツ語版 アントン・コーベルガー刊**
【ファクシミリ版】 099.3/312//H

Schedel, Hartmann (1440-1514) *Register des Buchs der Croniken und Geschichten mit Figure[n] und Pildnussen von Anbegin[n] der Welt bis auf dise unnserre Zeit.*

Nürnberg : Koberger, 1493

通称『ニュルンベルク年代記』(Nuremberg Chronicle)と呼ばれる本書は、聖書をもととした世界の歴史や地理に関する奇事や異聞を年代順に収録したもので、ラテン語版とドイツ語版が刊行された。印刷者はニュルンベルクで最大の印刷者であったアントン・コーベルガー。コーベルガーの特徴は豊富な挿絵のあることで、本書は木版画 1809 点を含む 15 世紀最大の木版挿絵本である。

36. **パチョーリ『算術・幾何・比例全書(スママ)』 ヴェニス 1494 年 パガニーニ刊【ファクシミリ版】**
099/2675//D

Pacioli, Luca (d. ca. 1514). *Summa de arithmetica geometria. proportioni, et proportionalita .*

Venice : Paganinus de Paganinis, 1494

数学者ルカ・パチョーリの著作の中で最初に出版された数学書であるが、数学書としてよりも複式簿記について論述された世界最古の印刷出版物として世界的に有名である。そのため著者は数学者でありながら「近代会

計学の父」と呼ばれている。出版当時から大評判であり、この書をきっかけとして著者とレオナルド・ダ・ヴィンチが親交を深めたことが知られている。

37. コペルニクス『天球の回転について』 ニュルンベルク 1543年 ヨハネス・ペトレイウム刊

【ファクシミリ版】 099.3/452//H

Copernicus, Nicolaus (1473–1543) *Nicolai Copernici Torinensis de revolvitionibvs orbium cælestium, libri VI*
Pelplin, Poland : Wydawnictwo Bernardinum , 2007 Reprint of: Norimberg æ : Apud Ioh. Petreium, 1543

コペルニクスは、1473年にトルン(現在のポーランドの一部)に生まれた。クラクフ大学で天文学を学び、イタリアのボローニャ大学でローマ法について学んだ。この『天球の回転について』(1543年)において、事実上の“地動説”を提唱し、また、それを元に惑星の軌道計算を行った。本ファクシミリ版の原本はポーランド所在の11冊のうちの1冊で、現在ニコラウス・コペルニクス大学(トルン)に所蔵されている。ヒギヌスの『天文詩』(Poetucib Astronomicon)およびプトレマイオスの『アルマゲスト』(Amagest)からの2章が合綴されている。

38. ヴェサリウス『人体の構造についての七つの書』 パーゼル 1543年 【ファクシミリ版】 099/2751//S

Vesalius, Andreas (1514–1564) *De humani corporis fabrica : libri septem*

Basileae : Ex officina Ioannis Oporini, 1543

ヴェサリウスは1533年18歳でパリ大学医学部に入学し医学を学ぶが、当時ヨーロッパ医学の主流であったガレノス(Claudius, Galenus. A.D.125–199)によるギリシア医学に失望し、ルーヴァンに戻って勉学を続ける。この時に検死解剖や人骨標本の組み立てなどを積極的に行い、やがてイタリアのパドヴァ大学に入学して1537年、23歳にしてパドヴァ大学医学部の外科及び解剖学の教授に抜擢される。以後、実証によってガレノスの誤りを正し、近代的系統解剖学の体系を樹立した。その最も著名な成果が『人体の構造についての七つの書』である。この書は、実証に基づいた人体のあらゆる箇所^{箇所}の完全な解剖学的・生理学的研究であり、骨、筋肉、脈管、神経、腹部内臓、胸部臓器、脳に関する7巻からなる。解剖学の歴史はヴェサリウス以前、以後に分けられ、ヴェサリウスは近代解剖学の基礎を築いた人物として知られるだけでなく、同書の出版は同じ年に出版されたコペルニクスの『天球の回転について』と並んで、近代科学の成立を決定づける記念碑的著作に位置づけられている。その木版解剖図の素晴らしさもまた特筆されるべきものである。

39. オルテリウス『世界の舞台』 アントワープ 1595年(初版は1570年) プランタン刊

【ファクシミリ版】 099.3/474//H

Ortelius, Abraham (1527–1598) *Theatrum orbis terrarium*

[Antverpiae : Ex officina Plantiniana , M.D. XCV.]

近代地図帳は、オルテリウスの『世界の舞台(Theatrum orbis terrarum)』(アントワープ 1570年)をもってその嚆矢とする。16世紀に頂点に達した大航海時代にあつて、ヨーロッパでは大量の地図が出版された。貿易・商業都市であるアントワープに生まれ、メルカトルとも交友のあったオルテリウスは、世界各地を旅して膨大な地図資料を収集し、新しい地図の印刷出版とともに、それらの中から良いものを選び、世界で最初の“地図帳”として結実させた。この地図帳の出版は大成功を収め、新しい地図を追加しながら1612年までに40版を重ねた。展示は1595年版で、この版にはポルトガルのイエズス会宣教師ルイス・ティセラの作製した日本図が初めて掲載された。日本図には本州、四国、九州が描かれているが、蝦夷はまだない。

40. マッツペルガー 『絵解き聖書』 アウクスブルク 1685 年 【ファクシミリ版】 193/104//D

Mattsperger, Melchior

Geistliche Herzens-Einbildungen inn zweihundert und funfzig biblischen Figur-Spruchen angedeutet. Allen andachtige[n] Herze[n], u. der Tugend-liebenden Jugent, zu einer gottseligen Belustigung, auch denen Einfaltigen, zu einer anmuthigen Vorstellung, unschweren Ergreifung, und nuzlichen Fassung, auss allen und ieden Buchern der H. Schrift, nach Herzen D. Martini Lutheri sel. Dolmetschung, von einem Liebhaber des gottlichen worts mit sonderbarem Freiss zusam[m]en gelesen, entworfen, und verlegt. Auch inn Kupfer gebracht, und zufinden, ...

Augstburg: Bei Hannsz Georg Bodenehr, Kupferstecher, 1685

本書の内容は以下のたいへん長い書名に明確に表れている。

「250 の／聖書の図像と言葉で表す／心の靈的想像／信心深い心を抱く全ての者、そして徳を好む若者の／法悦な喜びのために／また彼ら純朴な若者たちに／上品な想像を促し／感動を容易にし、更に有用な理解を助けるために／マルティン・ルター博士の翻訳による／聖書の全ての、そしてどの書からも／神の言葉を好む者の手で／特別な熱意を込めて拾い集め／企画、出版された／また銅版画師ハンス・ゲオルク・ボーデナーのもとで／銅板に彫られた
アウクスブルクにて 1685 年」

旧約及び新約聖書から 500 のフレーズを選び、各々に図像を配している。教訓を含んだ句が、従来の絵入聖書とは異なり、日常的に目にするもの、即ちハートや人の耳や目、手足、動植物、建造物、どの家庭にもある道具などのエンブレムと組み合わされている。

7年後の1692年に同じ出版社から別巻が刊行された。扉の図柄に1685年刊本との相違はあるものの、銅版画の中央には同様にハート形の空間を設け、これが「心の靈的想像 500／別巻／250 の／聖書の図像と言葉で表す…」という書き出しで始まって、ほぼ同じ内容の書名で埋められている。扉と見開きになるように「タイトル・ページの解説」が置かれ、その冒頭に「聖書の図像と言葉と題した前作は…神を愛する多くの、好意ある人々を満足させた」と述べて、7年前の出版が成功したことを示唆している。

41. ホブズ 『リヴァイアサン』 ロンドン 1651 年 【ファクシミリ版】 330/690-27//D

Hobbes, Thomas(1588-1679)

Leviathan : or the matter, forme, and power of a common-wealth ecclesiasticall and civill

London: printed for Andrew Crooke, at the GreenDragon, 1651

市民革命期イギリスの代表的政治思想家ホブズの主著で、社会契約説を打ち出した書。初版の口絵は、「リヴァイアサン」の擬人化した姿を象徴的に描き出している。本書には「1651年」刊とされている版が三種類あり、タイトルページの飾りに「人の頭」「熊」「オーナメント」とそれぞれ違う図案が使われている。チャールズ2世時代に復刻が禁止されたため刊年を変えて出版されたという。このファクシミリ版は初刷りといわれている「head」版である。

42. メネストリエ 『見世物論』 リヨン 1669 年 J. Muguet 刊 091.3/991//H

Menestrier, Claude-François (1631-1705) *Traité des tournois, joustes, carrousels et autres spectacles publics* Lyon : Chez Jaques Muguet, 1669

夥しい著作を残したイエズス会士メネストリエはリヨンの人。ヨーロッパ近代初期に行われた多種多様な見世物

を網羅的に記した本書は、騎馬戦、騎馬パレード、槍試合、曲芸、カドリール、山車、花火、軍隊の披露や模擬戦、さらにバレエ、仮面舞踏会にまで及んでいる。舞台装置についても一章を割いているばかりでなく、コレオグラフィーや制作に関する記述も豊富。18世紀以降廃れていった少なからぬ見世物に関する貴重な記録である。

43. ルソー『人間不平等起源論』ベルリン 1756年 C.Friedrich Voss 刊 091.3/969//H

Rousseau, Jean-Jacques (1712-1778)

Abhandlung von dem Ursprunge der Ungleichheit unter den Menschen, und worauf sie sich grunde: ins Deutsche übersetzt mit einem Schreiben an den Herrn Magister Lessing unde einem Briefe Voltaires an den Verfasser vermehret. Berlin, bey Christian Friedrich Voss, 1756

ルソーの出世作である『学問芸術論』と『人間不平等起源論』とは、いずれも彼がディジョンのアカデミーに応募した懸賞論文である。『学問芸術論』は1等受賞、『人間不平等起源論』は入選を逃すが、『社会契約論』へと連なるルソーの社会思想を示す記念碑的著作となった。仏語初版(アムステルダム)は1755年刊。本書は、原著刊行の翌年ベルリンで刊行されたドイツ語初版。翻訳は啓蒙思想家のモーゼス・メンデルソゾーンで、巻末には、この翻訳を薦めたレッシング宛のメンデルソゾーンの書簡と、ヴォルテールのルソー宛書簡の独訳が収録されている。

44. ビュフオン『博物誌』パリ 1749-1804年 091.3/850//H

Georges-Louis Leclerc de Buffon (1707-1788) *Histoire naturelle* Paris : Imprimerie Royale, 1749-1804

フランス、ブルゴーニュ地方のビュフオン伯爵ジョルジュ＝ルイ・ルクレールが、パリ王立植物園総監の要職にありながら、解剖学者ルイ・ドーバンなどの助力を得て、1749年秋に最初の3巻を出版した。その後も長い年月を経て出版され、ビュフオン没後にも8巻が植物園の同僚レセペードらによって編まれ、全44巻(45分冊)が完成した。1279枚もの図版が収められたこの『博物誌』は、デイドロらの『百科全書』と並んでフランス啓蒙主義に基く当時の自然科学の最大の成果である。本学所蔵本はフランス王室の紋章が型押しされた刊行当初のままの装丁本で、図版も全て揃っているものである。

ケルムスコット・プレス(Kelmscott Press)

19世紀末、産業革命後の英国において、機械化による大量生産と職人軽視の時代のなかで、詩人であり装飾工芸家、社会運動家であったウィリアム・モリス(1834-1896)が手仕事の重要性を強調し、美しい本、読みやすい本、楽しい本を刊行することを目的として、1891年に創立した私家版印刷所(プライベート・プレス)である。

用紙は手漉きの紙を使用し、活字は15世紀ベニスの活字書体を元に、モリスたちの考案を加えたゴールデン活字、15世紀ドイツの印刷本の活字書体、特にシェーファー(*1)らの書体をもとにしたトロイ活字、さらにイギリスのキャクストン(*2)の活字をもとにしたチョーサー活字を創った。挿絵は友人の画家の協力で、木版画を使用し、製本は簡略なホーランド布背・ボード装とヴェラム装がある。彼が亡くなる1896年までの5年間で53点67巻の美しい本を限定出版した。『チョーサー著作集』は世界の三大美書として知られている。

*1 Schöffer, Peter (ca. 1425-ca. 1502) ドイツの初期活版印刷の印刷者。

グーテンベルクの技術を受け継ぎ、ヨハン・フスト(Johann Fust)と共にマインツで印刷所を経営した。

*2 Caxton, William (ca. 1422-1491) 英国活版印刷の創始者。

45. エリス編『サー・デグレヴァント』1896年 092.3/650//H

Ellis, Frederick Startridge (1830-1901) ed. *Sire Degrevaunt* Hammersmith : Kelmscott Press, 1896

チョーサー体 350部限定 ホーランド布背ボード装。

46. ルイス・キャロル『地底の国のアリスの冒険』 自筆原稿 1864年【ファクシミリ版】 099.3/519//H

Caroll, Lewis *Alice's Adventures under ground* London : Folio Society, 2008

Facsim. reprint of: British Library Add. Ms. 46700

本書は『不思議の国のアリス』(*Alice's adventures in wonderland*)の原型となったルイス・キャロルの自筆原稿。1864年、ルイス・キャロルが、師の娘、10歳のアリス・リデルにクリスマス・プレゼントとして贈ったもので、貴重なオリジナルのマニュスクリプトは大英図書館に所蔵されている。本書はそのファクシミリ版。

47. ロセッティ『バラッド集と叙事詩集』 1893年 092.3/652//H

Rossetti, Dante Gabriel (1828-1882) *Ballads and narrative poems*

Hammersmith : Kelmscott Press, 1893

ゴールデン体 310部限定 リンプヴェラム装。

新聞・雑誌(定期刊行物)の登場

17世紀になると、ヨーロッパでは、印刷技術をはじめとして、初期郵便制度や流通体制などが整い、ニュースの需要が高まった。また、科学革命の世紀と呼ばれる17世紀には世界初の学術誌『Philosophical transactions』が登場する。

* 『Philosophical transactions』 Royal Society of London 1665- P405/5//DZ(C05J1)

48. 絵入新聞『イリュストリアルテ・ツァイトウング』 ライプチヒ 1843-1944年

Illustrierte Zeitung. Leipzig, 1843-1944 N/176//H

100年にわたってドイツで発行された絵入週刊新聞。政治、社会、文化など総合的情報を挿絵と文章を織り交ぜた紙面作りで、現在のマスメディア(新聞、テレビ、ラジオ)の役割を担ってきた。同様の絵入新聞としては、イギリスの『Illustrated London News』(1842-, M/684//H)、フランスの『L'illustration』(1843-, P055/16//D, 展示番号48)が有名である。

49. 絵入週刊誌『イリュストラシオン』 パリ 1843-1944年

L'illustration : journal universel. Paris, 1843-1944 P055/16//D

豊富な図版や写真を使ったフランスの絵入総合週刊誌。おおよそ毎号20頁ほどの構成で読者の手に渡った。1855年のパリ万博の際には、博覧会に出品されたドラクロワの作品が、木版画で再現されて紙面を飾った。図版は当初木版画だったが、1891年にはフランスで初めて写真が載る。カラー写真は1907年に掲載された。

50. 風刺週刊誌『パンチ』 ロンドン 1844-1992年

Punch. London 1844-1992 P053/59//DZ (C11H2)

風刺週刊誌『パンチ』は、1841年に創刊されてから1992年に終刊するまで、およそ150年にわたって刊行された。イギリスの政治や社会を鋭く描いた風刺画は、イギリスのユーモアの典型として広く愛読された。

51. 『ジェントルマンズ・マガジン』 ロンドン 1731-1907年

Gentleman's magazine. London, 1731-1907年 092.3/196//H

総合雑誌の始まりといわれているジェントルマンズ・マガジンは、1731年にロンドンで創刊された。英語辞書編纂者として有名なSamuel Johnsonが、その編集に携わったことでも知られている。バックナンバーは200巻以上になるが、明治大学図書館ではすべての号を所蔵している。

52. 百万塔陀羅尼 4巻【複製版】 塔1基 神護景雲4年(770) 091.1/18//H

奈良時代の女帝、称徳天皇(718-770)が天平宝字8年(764)に起きた藤原仲麻呂の乱を平定後、仏の加護に感謝し、また戦没者鎮魂のために、木製三重小塔百万基を造らせた。この小塔に納められたのが『無垢浄光経』(密教の経典)の4種の陀羅尼(根本、相輪、慈心、六度)である。陀羅尼とは、梵語(サンスクリット)文の呪文を意識せず、音写のまま唱えるもので、教えの真理を記憶させる力、行者を守る力、神通力を与える力があるとされる。短いものを真言、長いものを陀羅尼という。黄蘗染めの麻紙に印刷されており、韓国の仏国寺で発見された陀羅尼と並んで世界最古の印刷物のひとつ。完成した神護景雲4年(770)に畿内の興福寺、東大寺などの十大寺に分置された。現存するのは法隆寺伝来品のみ(約44,000基・明治41年調査)で、他は天災、兵火などで失われてしまった。

展示品は、小塔は奈良時代のオリジナルだが、陀羅尼4巻は全て複製。

53. (元)釋道泰、釋智境集『禪林類聚』20巻(欠巻3・4) 貞治6年(1367) 京都 臨川寺 補刻本
五山版 合9冊 091.1/22//H

禪宗の公案の集大成。公案とは、悟りを開かせるために与える問題をいい、昔の高徳の僧の言行を内容とする難問が多い。内容によって102門に類別収録している。

中国の元・大徳11年(1307)刊本の覆刻版で、五山版の中でも大部なもののひとつ。巻1目録末の刊記「貞治六年丁未解制日幹縁僧希杲重刊于京臨川寺」にあるように、希杲(生没年未詳・臨濟宗大覚寺派の僧)が多数の僧侶に刊行経費の寄付をつのり、京都臨川寺にて出版したもの。巻1目録末に刊記の他に「孟榮刊施」の補刻がある伝本が存在するが、これは出版後に中国人刻工の陳孟榮が目録4丁分を新しく彫り直したことを示し、当館所蔵本もこれにあたる。陳孟榮は応安3年(1370)に中国・元より来朝した。

※ 五山版

鎌倉時代に入ると、禪宗寺院は幕府、武家階級の有力な支援を得て、学僧養成の教材として中国の宋・元の禪典や詩文類を覆刻出版し、またわが国の禅僧が著わした語録などを宋・元刊本の様式で出版した。鎌倉時代末期から室町末期にいたる間に五山を中心に行われ、刊行された書籍を五山版と総称する。五山とは鎌倉五山(建長寺・円覚寺・寿福寺・浄智寺・浄妙寺)、京都五山(南禅寺・天龍寺・建仁寺・東福寺・万寿寺)を指すが、これ以外の禅宗寺院が刊行したものも五山版と呼んでおり、410種類を数える。臨川寺版は暦応4年(1341)に刊行が開始され、祖師の語録や禅宗経典の覆刻が主だった。天竜寺版と並んで五山版の代表的存在。

※ 覆刻版

原本の整版本や活字本を薄い紙に透写して版下とし、新たに整版本を作成したもの。透写するときには原本の本文や挿絵を意図的に修正、削除、追加したり、また誤認、誤写、脱漏を引き起こしていることがある。五山版に用いられた方法で、中国より伝来した稀少な宋版や元版は、覆刻によって増刷りされ、需要を満たした。

54. 『ぎやどぺかどる』 下巻 慶長4年(1599) 日本イエズス会【複製版】 198.2/31//H

きりしたん版国字本の典型。金属活字本。当時キリスト教文学の第一人者として名著の誉れ高かったドミニコ派修士ルイス・デ・グラナダ(Luis de Granada, 1505-88)の信心・修得の書を抄訳したものであるが、訳文も秀麗で、きりしたん版の白眉と称される。神の尊厳を述べると共に報恩善行の道を説いている。原本は重要文化財に指定されている。白茶色地に57

※ きりしたん版

天正18年(1590)、イエズス会の東方巡察使A. ワリニャーニが布教のため、教義書や教科書をはじめ国書類の印刷を目的として、西欧の印刷機を長崎に搬入し、加津佐、天草、長崎などにおいて印刷した書物。主として金属活字版だが、木活字版もある。ローマ字本(横組み)と国字本(縦組み)とがある。

の桐の花模様を雲母で刷り出した平仮名に漢字を交え、ラテン語聖書引用句などではローマ字を用いている。表紙、袋綴和装訂で全 121 丁。

標題紙裏の中央部に大型文字で『きやとへかとの』と日本語書名、その下に小さく 2 行に「罪人を善に／導くの儀也」と割書きし、右に「御出世以来千五百九十九年」、左に「慶長四年正月下旬鏤梓也」と刊年を記す。

天正 19 年 (1591) にローマ字本『サントスの御作業のうち抜書』2 巻 1 冊が初めて刊行されたが、慶長 19 年 (1614) キリスト教の大追放令が発令され、きりしたん版の刊行事業は完全に途絶えた。また刊行されたきりしたん版も多くは失われ、わずかに 32 点の現存が確認されている。

きりしたん版の平仮名まじりの口語俗語を中心とする表現方法は、大衆への普及を考慮したものであり、伝統的な仏典の漢語中心の出版に比べると革新的な発想であった

55. 『七書』 25 巻 慶長 11 年(1606) 伏見版 合 2 冊 091.1/16//H

伏見版としては最後に出版された書物。伏見版『七書』は、初版印刷後、ほとんど同時に同種活字を用いて再度印刷刊行された異版のあることが、現存する伝本の比較で明らかになっている。前者は東洋文庫蔵本などがあり、後者は安田文庫蔵本が知られている。当館所蔵本は後者の異版に当たる。『七書』とは 11 世紀初頭、中国の北宋年間に代表的兵法書 7 種を選んで「七書」と称し、軍事学の基本的經典と定められたのに始まる。本書は合冊されており、第 1 冊に『孫子』3 巻、『呉子』2 巻、『司馬法』3 巻、『尉繚子』5 巻、第 2 冊に『黄石公三略』3 巻、『六韜』6 巻、『唐太宗李衛公問對』3 巻を収める。『孫子』の上巻第 3～5 の 3 丁を欠く。家康は慶長 12 年春、駿府に退隱したので、『七書』を以って伏見版の刊行は終わっている。

※ 伏見版

慶長 4 年 (1599) から 11 年 (1606) までの 8 年間、徳川家康が京都伏見の円光寺において、元足利学校第 9 代座主 (校長) の閑室元信 (1548-1612) に、約 10 数万個の木活字を与えて、兵書を中心に刊行させた書物をいう。伏見版に用いられた木活字のうち約 1 万個は、現在京都市左京区に移った円光寺や京都府立総合資料館などに重要文化財として保存されている。

56. 光悦謡本『実盛』『熊野』『猩々』 「観世流謡本」百番
特装本の複製 099.3/30//H

『実盛』：世阿弥作の修羅物。斎藤別当実盛の霊が遊行上人の説法を聴聞したという伝説と、篠原の戦いの物語を脚色。遊行上人が北陸を訪ねた際、加賀の篠原で実盛公の亡霊に会い供養したという。全料紙が薄緑色。

『熊野』：世阿弥作品の最高峰と言われる作品。春爛漫の中で演出される男女の駆け引きが主題で、清水寺への道行き場面は特に有名。料紙の雲母模様が各伝本とも多様。

『猩々』：猩々は唐土に住むといわれる想像上の霊獣。中国の高風という人に、ある夜、海から現れた猩々が月下に舞いながら汲めども汲めども尽きず飲めども飲めども変わらぬ酒の泉を授け、これにより高風が富貴を極めたというめでたい謡曲。薄紅色の料紙を使用。

※ 嵯峨本

慶長年間 (1596-1614) 中期から元和年間 (1615-24) 初期に、京都の嵯峨で本阿弥光悦 (1558-1637) とその門流および角倉素庵 (1571-1632) らが共同で製作出版した書物で、整版本と古活字版がある。豪商の素庵が私費を投じて、嵯峨で出版したことから『嵯峨本』あるいは『光悦本』と呼び、草花や鳥などの模様を雲母で摺った料紙をはじめ、書体、挿絵、装訂などに美術的、工芸的意匠が凝らされ、わが国書物史上の最高の芸術品とまでいわれている。『伊勢物語』ほか 13 部 38 版種が刊行された。刊記がなく、刊年の不明なものがほとんどである。

57. 『鳥獣人物戯画』 2004 年 丸善 【複製版】 099.4/23//W

京都・高山寺に伝来する国宝絵巻四巻のうち、甲巻・乙巻の二巻の複製版。平安時代後期から鎌倉時

代前期にかけての作品とされている。筆者は鳴羽絵と呼ばれる戯画の名手鳥羽僧正覚猷(1053-1140)と伝えられているが確証はなく、四巻はそれぞれ制作年代や画風の違いから筆者が異なる別個の作品であると見られている。

甲巻は蛙、猿、兎などが人間のように戯れる様子がユーモラスに描かれた日本の戯画を代表する作品。乙巻は馬、牛、犬、鶏、獅子、象、麒麟、竜など実在する動物と空想上の動物の生態が写實的に描かれている。各巻ともに詞書はない。

58. 『竹生島の本地』 古活字版 丹緑本【複製版】 099.3/30//H

竹生島の弁財天の由来を叙述する本地物(神仏の前世譚であり、神仏の靈驗と信仰の功德を説くもの)の御伽草子。原本は、紙数 16 丁のうち、本文 12 丁半、絵 4 面で、挿絵には丹緑黄などの手彩色が施してある。内題「ちくふしまのほんし」。

大和の国壺坂の姫が、亡くなった父の十三回忌の追善を営むために自らの身を売り、奥州へと旅立ち、大蛇への人身御供の身代わりとなる。姫が生け贄として差し出されると、池から大蛇が現れるが、姫が法華經を読むと、その功德で成仏する。大蛇は感謝して、姫を生国まで送り、お布施として千両授ける。姫は母と再会し、後々は志賀の竹生島弁才天として祀られたという。

59. 八代集抄 北村季吟著 108 巻 50 冊 板木

近江国野洲(現在の滋賀県野洲市)生まれの江戸時代の俳人・歌人であり歌学者北村季吟(1625-1705)の注釈書のひとつ。平安時代の古今集から後撰・拾遺・後拾遺・金葉・詞花・千載集を経て鎌倉時代の新古今集に至る 8 つの勅撰和歌集を八代集といい、これら八代集について先行の歌学書・歌論書を踏まえ、私見や師説を引きながら歌集の成立過程、歌学上の評価、各歌の解釈について述べている。八代集すべてを一人で注釈したのは、後にも先にも北村季吟だけである。

※ 板木(はんぎ)

印刷するために文字や絵画などを彫り付けた板で、よく乾燥させた桜材が用いられる。一枚の板の両面を用いることが多い。整版本(一枚の板に文字を彫り、これに墨を塗って印刷したもの)の印刷の際に、板に版下を貼り付けて文字を左右逆に彫刻した印刷原版をいう。

彫り上げた板木は反りを防ぐために、板木の両端に「端食」を付けて保存する。彫り上げた後の手直しは、訂正した新たな木を部分的に入れる「埋木」「入木」と呼ばれる作業を行なう。

板木の寿命は保存さえよければ長いが、多くの場合は削って再利用されたり、処分されたりして残らないことが多い。

【参考展示】北村季吟著 八代集抄 古今集 巻 3 版本 京都:植村藤三郎[ほか] 天保 2 年(1682)

【参考展示】北村季吟著『八代集抄』上 活字本 六合館 1902 年

60. 井原西鶴『好色一代男』天和 2 年(1682) 8 冊 浮世草子【複製版】 099.3/30//H

井原西鶴著、落月庵西吟跋。1682(天和 2)年 10 月、大坂荒砥屋孫兵衛可心版。8 冊。

主人公世之介が、7 歳にして恋を知り、60 歳で女護島に渡るまでの彼の 54 年間の恋愛遍歴を小説にしたもの。版元の荒砥屋孫兵衛可心は、西鶴と俳諧を通じての知人で、本書は談林俳諧の誹風を身につけた読者に提

供された楽屋落文学であったのだらうと思われるが、当時の人情や風俗を興味深く描いたこの小説は、読者の心を魅了し、浮世草子と呼ばれる小説類の流行を生み出すきっかけとなった。章立ては『源氏物語』54帖の枠組みに倣ったといわれ、全8巻54章となっている。挿絵は西鶴の自筆ともいわれ、大変貴重な資料である。

61. 山東京伝 (1761-1816) 『江戸生艶気棒焼』 3巻 黄表紙 [出版年不明] 913/S1-1/D

山東京伝著、北尾政演画。北尾政演は京伝の画名。書名は「江戸前えどまへ鰻蒲焼うなぎのかばやき」をもじったもの。江戸の金持ちの艶二郎が主人公。艶二郎は醜男のくせにうぬぼれやで勘違いの強い男として設定されており、なんとか吉原の遊女などの色恋で浮名をながそうと必死に努力する姿が滑稽にえがかれている。黄表紙の代表作であり、艶二郎の名は自称色男の代名詞となり、その団子鼻は京伝鼻と称されて評判になったほど。

※黄表紙

江戸時代中期以降挿絵と文章の双方で表現された大衆小説（＝草双紙）の一種であり、黄（藁）色の無地の表紙を付けて売られた大人を対象としたエンタテインメントを言う。1冊5丁（10ページ）で2～3巻からなることが多く、2000種あまり刊行された。

62. 山東京伝 (1761-1816) 『通氣智之錢光記』 3巻合巻 黄表紙 享和2年(1802)

鶴屋喜右衛門 913.57/20//H

上巻の絵題簽は遊女と禿が外を覗く図で、手まりを落とすとその下に親犬・子犬が摺り出され、表紙全体で廓の春の点景という趣であり、いかにも凝った新工夫であった。

東京帝国大学文科大学の御雇教師であったチェンバレン(Basil Hall Chamberlain 1850-1935)および、大正時代に本学の教授で校歌の成立にも関わった評論家・俳人で歴史家の笹川臨風(1870-1949)の旧蔵書。

63. 山東京伝 (1761-1816) 『御詠染長壽小紋』 黄表紙 享和2年(1802) 913.57/SA1-81//H

山東京伝作、歌麿画。享和2年(1802)刊。角書「延命長尺」。

画工の喜多川歌麿(宝暦3～文化3年<1753～1806>)は、江戸時代のみならず日本を代表する絵師。名は信美、字は豊章。通称は勇助、後に勇記。狂歌名は筆の綾丸。鳥山石燕に師事し、寛政(1789～1800)初期から美人画の「大首絵」で人気を博した。黄表紙は30種ほどに麗筆を振るっている。文化元年に『太閤記』に取材した錦絵で筆禍を受けた。晩年は乱作に陥ったと評される。

64. 十返舎一九 (1766-1831) 『敵討桔梗原』 前編 3巻 黄表紙 享和4年序(1804) 913.57/JI1-13//H

十返舎一九作、歌川豊広画。文化元年(1804)刊。

後編3冊を欠くが、題簽を残しており、原本の原姿をうかがわせる。

十返舎一九(明和2～天保2年<1765～1831>)は、本名、重田貞一。寛政5年から戯作に手を染めて以来、生涯の作品数が580種を超えるほどの多作家となった。如何にも戯作者らしい戯作者であり、軽妙な人柄と筆捌きで洒落本・黄表紙・合巻・滑稽本・人情本を書き、馬琴とともに筆一本で暮らしを立てた最初の作家となった。代表作は、誰でもその名を知っている『膝栗毛』シリーズである。

歌川豊広は、敵討物で一世を風靡した楚満人との仕事で名を上げた画工で、楚満人・豊広のコンビの黄表紙・合巻は40作ほどが知られているが、そのうちの半数以上が「敵討」の名を冠している。

65. 柳亭種彦 (1783-1842) 『^{にせむらさきいなかげんじ}修紫田舎源氏』 38 編 1978 年 日本古典文学刊行会
文政 12 年-天保 13 年(1829-1842) 刊の複製版 099.3/30//H
66 の複製版。

66. 柳亭種彦 (1783-1842) 『^{にせむらさきいなかげんじ}修紫田舎源氏』 38 編 文政 12 年-天保 13 年(1829-1842)
鶴屋喜右衛門 913.57/Ry1-38/B/H

『源氏物語』を室町時代の世界にうつして翻案・合巻化した異色の作品。当時、中国文学の翻案が大いに流行していた背景があるが、種彦はこれを日本古典文学に見出した。足利将軍の一子、光源氏ならぬ光氏が、お家乗っ取りを企む謀反勢力と闘うため、身をやつして女性遍歴を重ねる。まさに恋あり陰謀あり、室町は花の御所を舞台に人気浮世絵師國貞の妖艶な挿絵が映し出す歌舞伎仕立の『源氏物語』で、熱狂的な人気を得た当時の大ベストセラー。将軍家斉の大奥生活に触れたがために絶版となったと伝えられるが、戯作文芸一般への弾圧と華美装幀の禁止が主と見られる。挿絵は歌川國貞による。

67. 朱楽菅江編 喜多川歌麿画 『潮干のつと』 寛政元年(1789) 耕書堂 蔦屋重三郎 091.1/25//H

『潮干のつと』は、狂歌師^{あけら かんこう}朱楽菅江の朱楽連 36 人が詠んだ 36 種の貝を表題にした狂歌に、歌麿が写生風に貝の挿絵を描き、金銀、雲母摺りなど当時の最高水準の技術を駆使し贅と美の限りを尽くした多色摺り豪華絵本で、歌麿の狂歌絵本の代表作。

ほかに虫や鳥を挿絵にした『^{えほんむしえらみ}画本虫撰』(1788 刊)、『^{ももちどりきょうかあわせ}百千鳥狂歌合』(1790 刊)も知られる。

これらは新興の版元であった^{つた やじゅうざぶろう}蔦屋重三郎の耕書堂から逐年で作成・刊行され、歌麿の絵本は大いにもてはやされた。しかし寛政 3 年 (1791) には、寛政の改革が出版界にも及び、版元の蔦屋が身上半減という重い刑を科せられたことで、豪華絵本の刊行は一時、急速に終息に向かった。

- 【参考展示】 宿屋飯盛^{えほんむしえらみ}[撰] 喜多川歌麿 [画] 『^{えほんむしえらみ}画本虫撰』 初摺本 【複製版】
099.3/30//H

68. 福澤諭吉 (1835-1901) 『学問ノススメ』 明治 5-9 年(1872-1876) 002/8/B/H

明治初期の大ベストセラー『学問ノススメ』全 17 篇が刊行されたのは、木版印刷から活版印刷にかわり始めた時期にあたり、各編で活版・木版が混在している。これは版木の保存される木版がこの時代は増刷にはまだ便利であったためで、はからずも技術の過渡期であることを表している。毛利家旧蔵の本学所蔵本は、1-3 は木版、4-9 と 11 は活版、10 は木版で印刷されている。本学所蔵の初編は、明治 6 年(1873)刊行。